

| | |
|-------------|---|
| Title | Calvé扁平椎の一例 |
| Author(s) | 中脇, 正美 |
| Citation | 日本外科宝函 (1954), 23(5): 549-550 |
| Issue Date | 1954-09-01 |
| URL | http://hdl.handle.net/2433/206116 |
| Right | |
| Type | Departmental Bulletin Paper |
| Textversion | publisher |

Calvé 扁平椎の一例

厚生年金玉造整形外科病院 (院長 医学博士 塩津徳政)

医員 中 脇 正 美

〔原稿受付 昭和29年7月13日〕

ONE CASE OF THE CALVÉ PLATYSPONDYLIA

by

MASAMI NAKAWAKI

The pension Insurance Werfer Tamatsukuri Orthopedic Hospital
(Director : Dr. NORIMASA SHIOTSU)

The author will describe briefly one case of Calvé platyspondylia, is known to be relatively rare disease, of which I experienced recently.

For the reason that roentgenogram made in consideration of symptoms occurred from lower thoratic vertebrae region to lumbar vertebrae region at the first observation, we failed to diagnose it to be the Culvé Platyspondylia until the third observation.

HANSON stated that the involved vertebra may be restored to normal figure about two years after, and MITHUYASU, Ooya had nearly the same results in their reports. However, on one observation to this case during one year long, there was completely no recognizable evidence of normal figure up to the present.

緒 言

本症は比較的稀な疾患に属し Calvé が臨床的に結核性脊椎炎と類似の症状を呈するが X 線像で椎間軟部は反つて巾が増大し椎体だけが扁平化する一病型を分類して以来、Calvé 病と呼ばれているものである。私は最近その一例を経験したので報告する。

症 例

青○利○。女。4才。

初診：昭和28年4月15日

主訴：脊柱の変形

家族歴：特記すべきものはない。

現病歴：昭和28年4月初旬より特に誘因と思われるものなく元気を欠いて来たので某国立病院で受診した所蛔虫症の診断を受けた。駆虫薬を服用し排虫を認めたが、その頃より歩行時は脊柱を前屈し且つ腰痛を訴える様になつた。

現症：全身所見に特記すべきものはない。

局所々見：脊柱は胸腰椎部に軽度の亀背を認め第

4, 5 腰椎並に仙椎部に圧痛叩打痛並に軽度の脊柱硬直を証明する。両側腸骨窩には硬結波動を証明しない。膝蓋腱及びアヒレス腱反射は共に減弱している。又跛行や膀胱直腸障害等は証明されない。当時は罹患部位の X 線検査を行つておらず、胸腰椎部を中心に X 線検査を行つていたため特に病的所見を証明しなかつたが一応脊椎カリエスの疑のもとに経過の観察をすることとし胸ギブス固定を行つた。約2ヶ月後の X 線像に於て尙初診時と同様著変を証明しなかつた。更に約2ヶ月後初診より約4ヶ月に上部胸椎に軽度の自発痛を訴え且つ叩打痛及び圧痛を証明したので胸椎の X 線撮影を行つた所第4胸椎体の著明な扁平化と同時に椎間軟部部の巾の増大を証明しこゝに始めて本疾患であることを知つた。

X 線像所見：第4胸椎々体の扁平化は著明で且つ骨陰影は濃厚である。輪廓は鮮明ではあるが、稍々不規則であつて又椎間腔はむしろ拡大し特に椎体前縁部で著明である。

爾後約2ヶ月の間隔で X 線撮影を行いその間、脊柱反張位ギブス固定を施行したところ第5回診察時より

漸時脊柱の圧痛叩打痛は軽減する様になつた。この時のX線像では第4胸椎前縁は錐状に突出し椎体の陰影は濃厚で且つ著明に扁平化している。椎間腔は後方では僅かに拡大しているに過ぎないが前方で著明に増大する。第6回診時には全く脊柱に圧痛叩打痛は証明しなくなり、コルセットを装着せしめた。この時のX線像では前回のと特に著変を証明しないが、僅かに第4胸椎体の高さを増加した様に思われる。

赤沈値について

| 第1回診察時 | 1時間 | 40 | 2時間 | 82 |
|--------|-----|----|-----|------|
| 第2 | 〃 | 〃 | 32 | 〃 52 |
| 第3 | 〃 | 〃 | 20 | 〃 35 |
| 第4 | 〃 | 〃 | 18 | 〃 48 |
| 第5 | 〃 | 〃 | 2 | 〃 5 |
| 第6 | 〃 | 〃 | 6 | 〃 12 |

考 按

本症は5才以下の幼児に多く発見するものとされており本例もまた4才の女兒である。本症の本態については尙不明であるが舟状骨の Köhler 氏病と同義のものではないかと思はれておる向もあるが又 Nilsonc は原因不明の先天性骨格異常と言ひ Valentin は多発性骨軟骨病と唱え、Weill は脊椎を好んでおかす Chondro-dystrophia foetalis であるとも述べている。Hanson に依れば約2ヶ年後には扁平椎は略正常に復

帰すると述べてあり光安大矢氏の報告もこれと類以の結果を得ている。私の症例に於ては約1年間の経過を観察したが未だ扁平化された第4胸椎の著明なる正常復帰像は認められない。

結 語

1) 以上比較的稀有なる疾患とされている Calvé 扁平椎の一例を経験したので報告した。

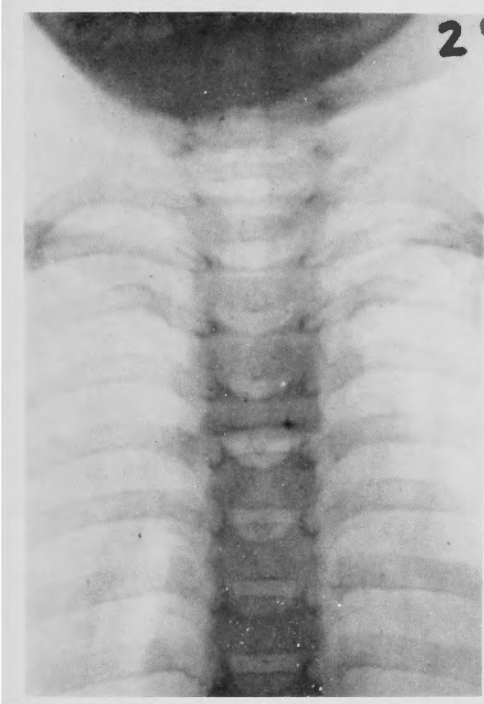
2) 症例は4才の女兒であつて初診時下部胸椎より腰椎部における症状を考慮してX線診断をなしたため第3回の診断時に至り漸く本症であることを知つた。

3) 約1ヶ年間の経過観察に依つてもX線像では未だ扁平化した第4胸椎々体の正常復帰を証明しない。(終りに臨み御指導御校閲を賜はつた院長塩津徳政博士に深甚の謝意を表す)

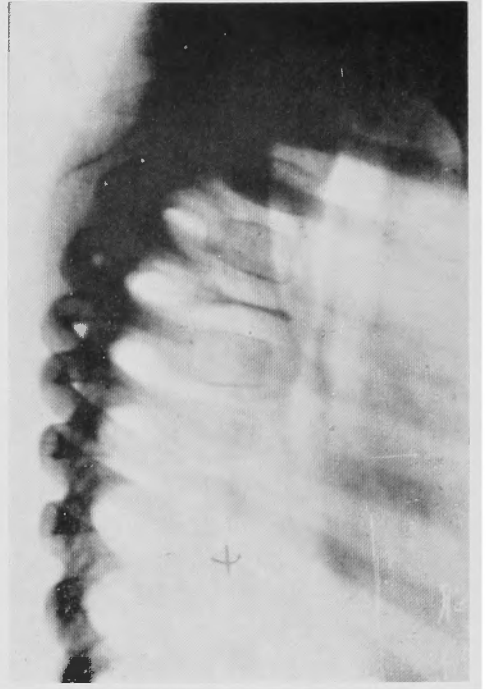
(本文の要旨は昭和29年5月29日京都外科集談会に於て発表した)

文 献

- 1) 神中 正一：神中整形外科学 2) 大矢 莞爾：扁平椎 (Calvé) の治療経過の一例，日整雑23巻2号 3) 伊藤，鈴木，伊藤：Chondrodystrophia foetalis の3例と汎発性扁平椎の一例，日整雑 26, 2. 4) Müller：W. pathol. d. wirbelsäule 1932. 5) Valentin：Zblt. chir. 57, 1930.



第3回診断時（本症なることを発見した時）
のX線像（前後面）



第3回診断時（本症なることを発見した時）
のX線像（側面）



約1ヶ年間経過後のX線像（前後面）



約1ヶ年間経過後のX線像（側面）